

少年^{しょうねん}たんていのレンは、学校^{いっしょう}でもいろいろなじけんをかいはしつてい
るよ！

★お話^{おはなし}が正しいじゅん番^{ばん}になるように、□に番^{ばん}のつづきを書^かこう。

1

朝^{あさ}、レンが友だちのきんた、リクと教室^{きょうしつ}で話^{はな}していると、
かりんが走^{はし}ってきて言^いいました。
「にわとりが一羽^{いちわ}いないの。きのう帰^{かえ}るときは、いたのに。」



3

つぎに、レンは、とびらをしらべました。かぎはしっかり
かかっている、こじあけたあとありませんでした。
ここからにげたり、さらわれたりしたわけではなさそうです。



6

そこへ、にわとりをだいた先生^{せんせい}が、やってきました。
レンがすいりしたとおりでした。
「手当^あてしてもらったので、もう大じょうぶですよ。」
先生^{せんせい}に言^いわれて、みんなはあん心^{しん}しました。



4

それから、みんなで手分^{てわ}けしてまわりをしらべていると、
リクが金^{かね}あみに小さなあながあいているのを見つけました。
「そのあなは小さいから、にわとりは通^{とお}れないよ。」
と、きんたが言^いうと、リクが言^いいかえました。
「でも、ここに羽^{はね}とちがちょっとついてるぞ。」



2

そこで、みんなは、しゆく小やにおかいました。
まず、レンは、しゆく小やのまわりの足あとをしらべます。
さく夜雨^{やあめ}がふったので、足あとは二人分^{ふん}だけでした。
小さいほうがかりんので、大きいほうは大人^{おとな}のようです。



5

それを聞^きいたレンが言^いいました。
「わかったぞ！ きつと、金^{かね}あみだけがをしたにわとりを
先生^{せんせい}がどうぶつびょういんにつれていったんだ！」

